

R5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 太陽福祉会	代表者	鹿野勇	法人・ 事業所 の特徴	法人内で各委員会の取り組み、研修会を実施しており、また法人全体で事業所の運営、行事の開催をバックアップしています。事業所の理念を「笑い・楽しみ・役割」とし、ご利用が安心して過ごせるよう日常の家事を職員と一緒にいき、必要に応じて自宅へ訪問して安心して自宅で生活できるよう支援しています。事業所を田村地区、関集落の行事が開催できる場所として提供し、地域の方々との交流に努めています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護施設 田村ゆうゆうの里	管理者	木内裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	1人	人	人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	コロナ禍で開催を自粛していた家族会を感染症対策のもと実施し、ご家族同士の交流や事業所への声を聞く機会を作る	今年度も家族会の開催は感染症対策の観点から自粛した。家族からの要望や意見収集は、送迎時や日々の関わりの中で丁寧に迅速に対応した	家族会は、家族にとっても他の家族と様々な情報交換ができる機会でもあり、ありがたい。飲食のもてなしはなくても良いので、家族会を再開して欲しい。そうした場の方が率直な意見や要望も出るのではないか	家族会を再開し、ご家族同士の交流や事業所への声を聞く機会を作る。事業所でのご利用者の様子や取り組みを伝える
B. 事業所のしつらえ・環境	ご利用者と一緒に畑作業や玄関の花植えを行い、地域の方にも季節や旬を感じていただけるよう取り組む（戸外へ出る機会を作る）	ご利用者と一緒に畑活動（苗植え、収穫）を行い、干し柿作りや玄関前のプランターへ花植えを行った	いつも明るい雰囲気伝わっており、園芸等に取り組まれている姿も地域側からも見えている。無理にならない程度での農作業は、地域柄、利用者の方にも喜ばれていると思う	事業所の畑や庭へ出る機会を積極的に作り、ご利用者や職員の様子が地域の方からも垣間見える活動を行う
C. 事業所と地域のかかわり	今年度は地域の中の一員として、関区の防災訓練に参加する	今年度も地域の防災訓練には参加できていない。事業所では9月と3月に消防訓練を実施した	地域の防災訓練は、コロナ禍以降机上訓練のみとなっており、一緒にできる状況にない。災害時どうするか、施設間・事業所間・職員間で共有できていれば問題ないと思う	コロナ禍を経て、地域とのかかわり方を改めて考える。地域へ出向く、地域の方を迎える活動を試みる
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	コロナ禍で自粛していたドライブや外食、地域行事、ボランティアの受入れを感染症対策のもと実施し、地域との繋がりを取り戻す。地域へ出向いていく機会を作る	ドライブや事業所の畑で活動を行った。独居の方には近くのスーパー等へ買物支援を行っている。散髪等、なじみの関係を継続するための支援も、利用者の希望を聞き対応した	利用者が自宅と事業所以外の場所に出かけられる状況となり良かった。利用者が望まれていることであれば、事業所として取組めるのであれば、そういったサービスを提供すれば良いと思う	ご利用者の「望み」や「願い」、これまで大切にされてきたことの継続ができるよう、事業所として柔軟なサービスを提供する

E. 運営推進会議を活かした取組み	民生委員の方から地域の心配な方等の情報提供を依頼し、会議の場で共有する	今年度から田村地区の民生委員（3名）に順番に会議に出席して頂き、地域の心配な方の情報共有を行った（情報提供が双方に行える場の創出に繋がった）	田村ゆうゆうの里について、運営推進会議に出席するようになってから取り組み等を知ることができた。必要な情報提供がされており、役に立った	民生委員の方から地域の心配な方等の情報提供を依頼し、会議の場で共有する
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議にて事業所の防災計画について伝える機会を作る	台風や積雪時の対応は伝えられたが、BCP策定の最中、計画を伝えることはできなかった	大災害が起こった時、事業所のみで対応するのか、地域住民の協力も必要なのか、ある程度知らせて欲しい	運営推進会議にて事業所の防災計画について伝える機会を作る